



ごあいさつ

公益社団法人日本診療放射線技師会

会長 中澤 靖夫

第31回日本診療放射線技師学術大会は11月21日～23日の3日間、京都府国立京都国際会館において轟英彦大会長（公益社団法人京都府放射線技師会会長）の下、近畿地域に所属する各県（診療）放射線技師会の全面的なご協力のおかげで開催できますことを心より御礼申し上げます。

今大会のテーマは「国民と共にチーム医療を推進しよう」であり、サブテーマは京都府放射線技師会の総意を表した「伝統文化と未来」です。京都は日本文化の象徴と言っても過言ではありません。日本古来の神社仏閣が立ち並び、古い町並みがそのまま現代に活用され府民と共に生き生きと生活しています。京都の庭園はわびとさびの日本文化を表現し、日本独特の美意識を感じることが出来ます。米旅行誌『Travel+Leisure』は、読者投票で京都を2年連続で「世界で最も魅力的な観光都市」に選んでいます。この学術大会開催期間中は、世界から最も多くの観光客が訪れるハイシーズンといわれています。本年も全国47都道府県と連携しながら、診療放射線技師の「伝統文化と未来」を意識しながら、ワクワクドキドキするすばらしい学術大会となるよう協力していきたいと思えます。

厚生労働省連携企画としましては「乳がん検診の現状と今後のあり方」「画像診断における読影補助の現状と展望」「診療報酬改定のありかた」「死因究明等推進計画の考え方」の4演題です。各演題には厚生労働省大臣官房、厚生労働省医政局医事課、厚生労働省保健局医療課、厚生労働大臣政務官に基調講演をお願いしています。招待講演Ⅰとしては「Current status and issues of the Radiological Technologist education for Asian region」と題して、ISRRT Vice president Dr. Napapong Pongnapangの講演、招待講演Ⅱとして「Influence of image analysis on the diagnosis: For cardiovascular imaging of CT and MRI」と題して、Johns Hopkins University Dr. Joao A.C. Limaの講演、International session 37演題の発表を予定しています。さらに本部企画として消化管画像分科

会、放射線機器管理士分科会、放射線管理士分科会、がん放射線治療分科会、読影分科会、医療安全対策委員会、医療被ばく安全管理委員会、人材育成委員会（マネジメント研修班、女性活躍推進班）の報告を準備しています。

本会の大きな役割は国民と協働し、医療者と協働し、質の高いチーム医療を推進することです。平成27年度は業務拡大に伴う統一講習会を47都道府県と連携しながら実施しています。新たな業務として、X線CT・MRI・血管検査等における自動造影剤注入装置を用いた造影剤の投与、検査終了後の抜針・止血、下部消化管のネラトンチューブの挿入と造影剤の投与、核医学診断装置を用いた検査、画像誘導放射線治療における肛門カテーテルの挿入・空気の吸引が加わりました。本会は全国で働いている全ての診療放射線技師を対象として統一講習会を実施していく所存です。

さて、府民の皆さま方を対象とした企画としては、公開フォーラム1「スポーツ復帰へのリハビリテーションと移植臓の血流に対する画像評価」、公開フォーラム2「和牛の歴史とセシウム問題」、イベント企画1「健康寿命と健幸退職」、イベント企画2「大好きな野球を続けていくために～野球肘検診の重要性と投球指導ポイント～」を準備していますので、多くの皆さま方に参加を頂き、ご自身の健康管理などに役立ていただきたいと願っています。また日本画像医療システム工業会ならびに関連医療機器メーカー、医薬品メーカーのご協力により、医療機器の展示・医薬品の展示を企画していますので、多くの会員の参加をお願い致します。

最後になりましたが、学術大会の開催に当たり3年間の長きにわたり準備していただきました轟英彦大会長、河本勲副大会長、北村真副大会長、原口隆志実行委員長、各実行委員の皆さま方に心から感謝を申し上げますとともに、会員の皆さま方のご参加とご協力をお願いする次第です。

平成27年9月吉日